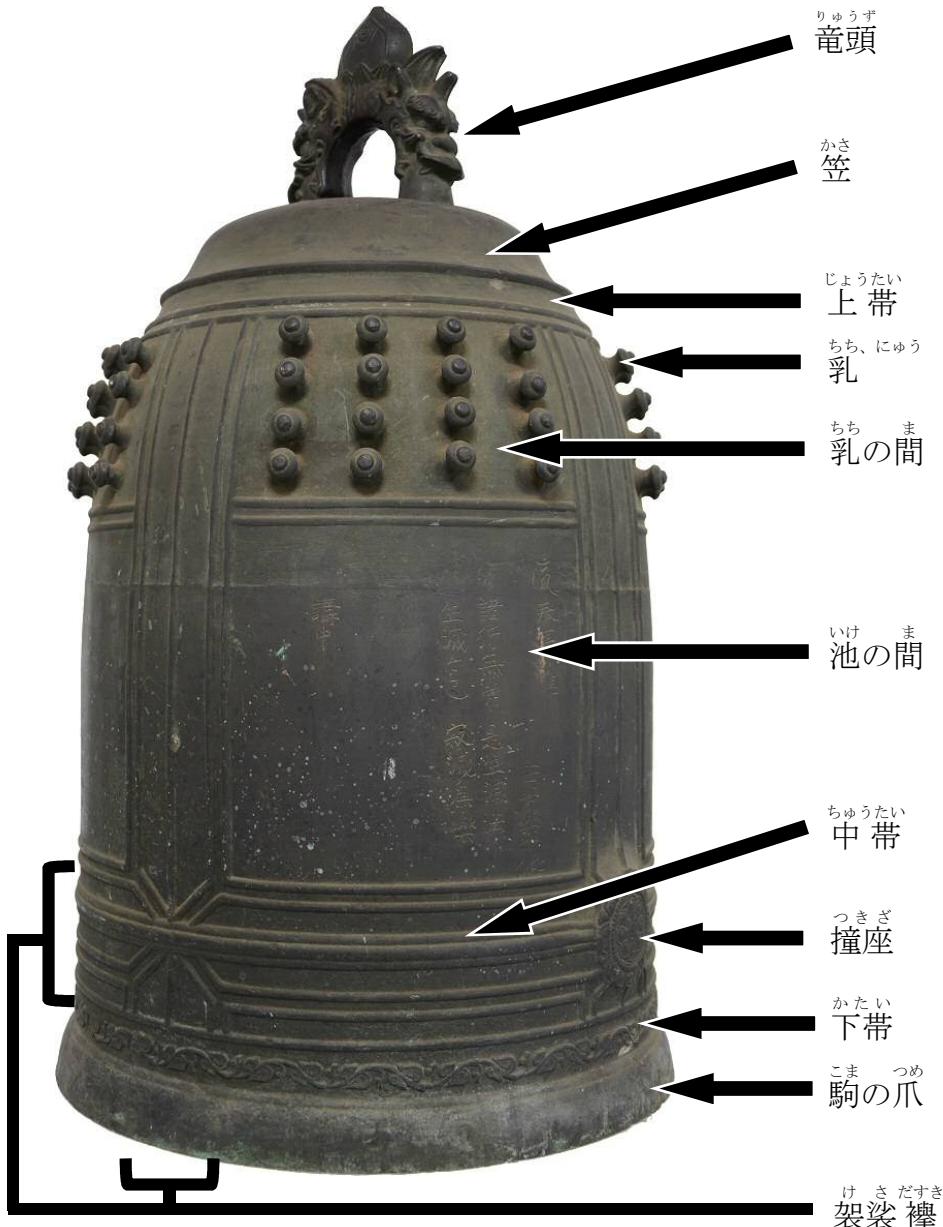


# 遍照寺の半鐘

## 半鐘の部分名称



高さ 約64cm、最大径 約37cm、重量 約30kg

## 半鐘とは

半鐘とは、銅に錫や亜鉛を加えて鋳造した小型の釣鐘で、大きい梵鐘よりも小さいことからその名がつけられています。仏教の伝来とともに飛鳥時代から存在したといわれ、江戸時代に最も多く製作されましたが、その多くが第二次世界大戦時に供出されて鋳潰され、戦前からある鐘は少なくなってしまいました。

遍照寺の半鐘は、江戸神田の鋳物師である小沼播磨守によって製作され、正徳元（1711）年12月に講中（檀家などの集り）から寄進されました。平成2～13年度にかけて実施された市内の寺社に伝わる工芸品の調査によると、戦前から残っている半鐘は6点ありますが、新たに発見された遍照寺の半鐘が最も古い年代に製作されたものとなります。

## 遍照寺の歴史

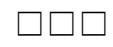
川崎区中島に所在する天台宗の寺院です。山号を光明山といいます。江戸時代に編纂された地誌である『新編武藏風土記稿』によると、寛永19（1642）年に天海僧正によって与えられた書物を所有していることが記されています。また、寺の墓誌には、慶安2（1649）年に遷化した法印高海によって開山されたと記されています。

川崎大空襲によって多くの寺宝を焼失しましたが、当時の住職が本尊である阿弥陀如来立像を井戸へ避難させたことで今日も現存し、地域の人々に篤く信仰されています。

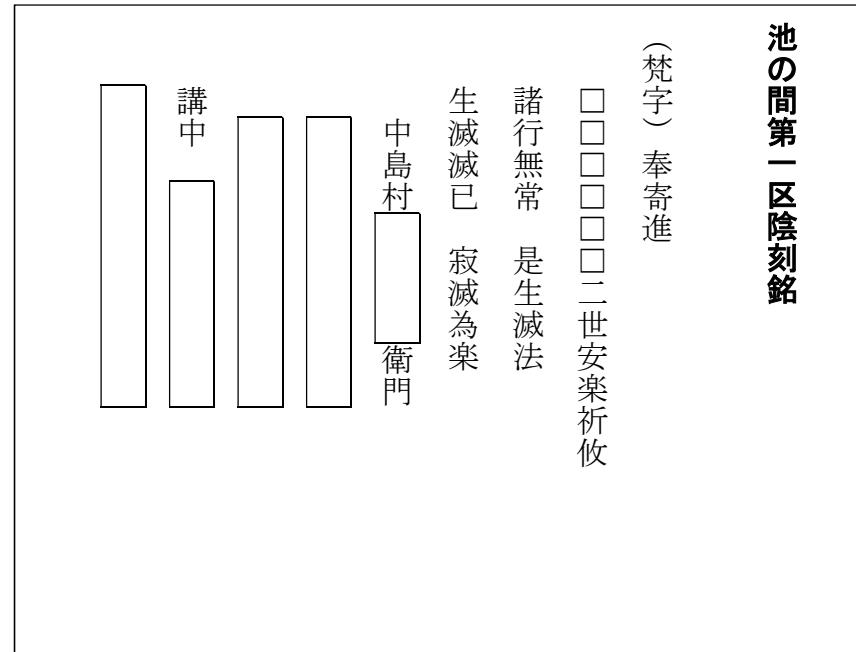
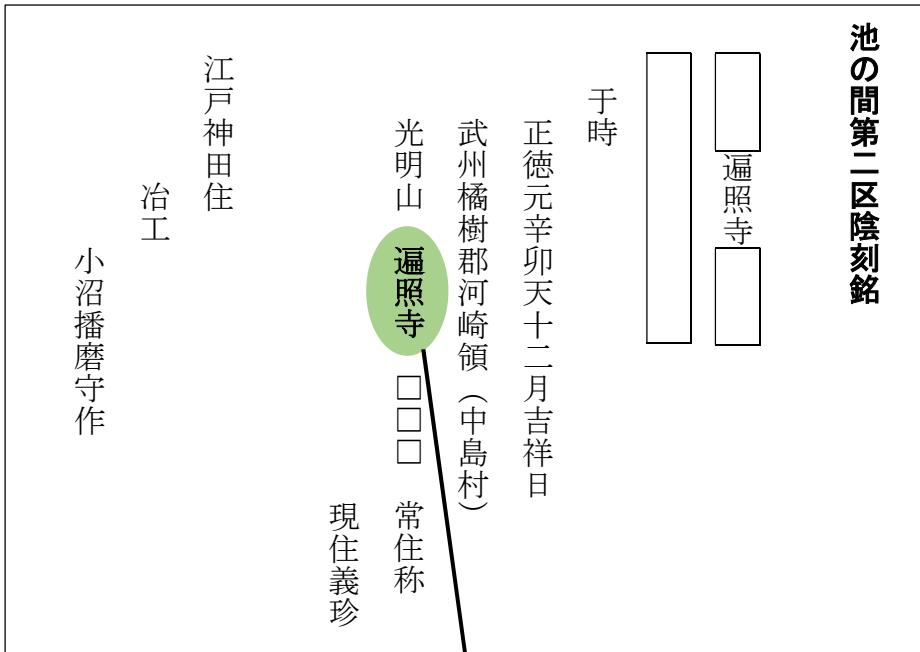
# 読み取ることができた半鐘の銘文



・・・判読ができない文章



□□□・・・判読ができない文字 (□で1文字)



## 写真 1

発見された半鐘の表面に刻まれた銘文は、一部が人為的に削り取られていきました。しかし、強い光を当てながら肉眼で観察したところ、断片的ですが、当初の文字を確認することができました。



## 写真 2

そこで、削られた部分を撮影し、写真を画像編集ソフトウェアで編集して陰影を強調させました。その結果、元々刻まれていた線が浮かび上がり、文字を読み取ることができました。



## 写真 3

全ての文字を完璧に読み取ることはできませんでしたが、断片的な情報を元に調査した結果、正徳元年に義珍という住職がいた記録が見つかったことで、この半鐘が遍照寺のものであることがわかりました。

